

「大泉・水と緑を守る会」からの要望書(平成24年12月6日)

団001-1

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所
所長 吉岡 大蔵 様

平成 24 年 12 月 6 日

要 望 書

大泉・水と緑を守る会

中部横断自動車道の山梨県側ルートが従来の案よりやや東南側に変更されましたが、以下の理由で八ヶ岳南麓を通る高速道路建設に反対致します。


1. 「大泉・水と緑を守る会」では9月23日に「八ヶ岳の内部のことをもつと知ろう」という演題で講演会を行いました(同封の「八ヶ岳ジャーナル」10月1日号記事をご覧ください)。その講演会で、八ヶ岳が100万年以上前からの度重なる大噴火と崩壊によって、複雑な地層を持つ内部に豊富な水を蓄えた山であることを知り、それ故に八ヶ岳の山の動植物が生物多様性に富み、豊かな美しい景観を作りだしていることを学びました。新ルートも八ヶ岳南麓に位置し、ルート内には田圃も多く、また標高的にも多彩な野菜を作れる条件を備えています。このような場所に高速道路を作ることは不適切であると思います。
2. 日本海と太平洋を結ぶ輸送路が必要であるとしても、すべてを高速道路で結ぶ必要はないのではないでしょうか。今後人口が減る中で、利用台数の予測からこの地域に果たして高速道路が必要でしょうか。先のアンケートでも山梨県側の回答は、国道141号線の改良、バイパス整備などが多数を占めました。国の財政が厳しい中、無駄な公共事業は止めるべきで、141号線の改修案を是非復活させて下さい。
3. 笹子トンネルで大規模な天井板崩落事故が起きました。東日本大震災以降日本列島全体がますます地震活発化しているため、全国のトンネル・橋脚などがダメージを受けている可能性があります。国民の安全・安心第一の観点から、新たな高速道路を作るより先ず今ある高速道路の総点検・補修にお金を使うべきです。

よろしくご検討くださいますようお願い申し上げます。

以上

団001-2

八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り



八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り

八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り
八ヶ岳の湧水が
水と緑を守る会
八ヶ岳南麓側の手廻り

■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団002-1

平岩 洋三さま

北社市大泉の住居を終の棲家にとってもって11年の歳月を送っているものです。昨年末に国交省から提案された新ルートが丁度真ん中に位置しています。当然ですが新ルート提案については反対です。新ルートの地域に住む者にとって静かな生活を奪われる不安と怒りは大きなものがあります。

ですから短期間で行政の末端組織である下井出地区東組(22世帯)で「高速道路反対対策委員会」が出来、さらに広い範囲での「新ルート沿線住民の会」が立ち上がろうとしています。

中部横断道の建設にあたって地域住民の意見を聞くことを最優先にしてほしいと考えています。以上から地域住民の意思を表している情報(チラシ等)を定期的に移らせていただきます。

団002-2

静かな生活を破壊する 高速道路に反対します

11月21日発行の国交省の中部横断道の変更ルート図によりますと、ここ大泉町下井出地域を通ることが明らかにされています。

私たち大泉町下井出地域に生活をしている下井出東組(22世帯)は静かな生活を破壊する高速道路に反対します。

これまで提案されていたルートは八ヶ岳大橋を通り別荘地を通って長坂インターに至るものでした。そのルートが別荘地の多くの人たちの反対運動で立ち往生となり急遽、変更ルートが11月に発表されたのです。考えてください。下井出東組の多くの方は自然の中で静かな生活を求めてここ大泉にきた人たちです。美しい景観、美味しい水と空気、このかけがえのない財産を台無しにしてしまう高速道路はいりません。

大泉・高根のみなさん。私たちの「静かな生活を破壊する高速道路に反対」する運動にご理解くださるようお願いいたします。ともに変更ルート撤回に向けて声を上げることをお願いいたします。

本日12月8日に予定されていた現地調査は延期

本日12月8日に予定されていた現地調査は笹子トンネルの崩落事故のため延期されました。笹子トンネル崩落事故は、建設後30~40年経った高速道路の補修点検が急務であることを意味しています。

私たちの命を守るために、新しく高速道路を作るのではなく、今ある日本中の道路を入念に点検し、整備することが求められています。

住民アンケートでは、北社市民の53%以上が、新しい高速道路建設ではなく、一般道(国道141号)の改良を望んでいます。住民の意向を尊重した施策を望みます。

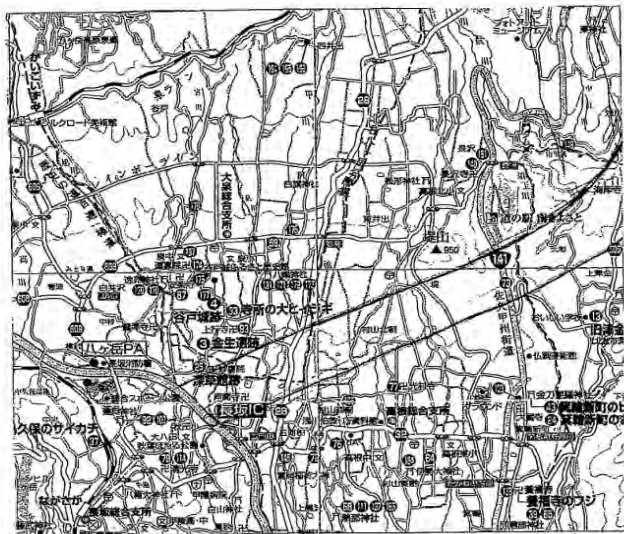
2012.12.8 大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会

■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団002-3

資料 長坂インター周辺地図と変更ルート



この件についての問い合わせは

国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所計画課

TEL 055-254-6571

北杜市役所道路河川課

TEL 0554-42-1363

団002-4

美しい景観・静かな生活環境を 守るため高速道路に反対します

趣意書

平成24年11月21日に、中部横断自動車道が長坂インターから大泉町下井出一高根町村山北割一須玉町海岸寺方面を横断する新ルート計画が国土省甲府河川国道事務所より公表されました。

この周辺には、多くの地元住民や美しい景観・静かな生活環境を求めて移住してきた人たちが自然と共生し過しています。

先の住民アンケートでは北杜市民の53%以上が、新しい高速道路の建設よりも、一般道(国道141号線)の改良を強く要望しています。もうすぐ現地調査や住民への説明会が行なわれますので、私たちの声が活かされるよう、今一人でも多くの反対の声をあげることが必要です。

日本でも数少ない景観・環境に恵まれた美しい町を守りましょう！！

目の前に高速道路が通り、騒音や排気ガスなどで汚れた町にならないよう、「高速道路反対」の運動にご協力をお願いします。



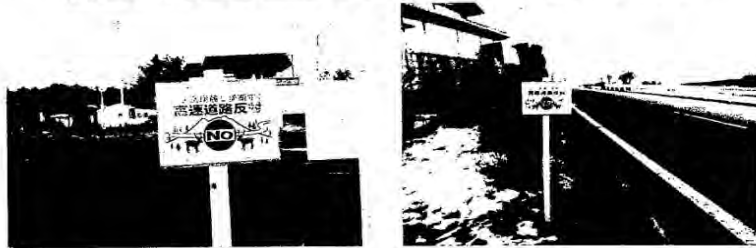
平成24年12月28日
大泉町下井出地区
東組高速道路反対対策委員会

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団002-5

高速道路建設に反対する立看板を設置しました



新ルート案沿線地権者のご協力をいただいて看板を立てました。

北杜市議会での質疑応答

12月21日に行なわれた北杜市議会にて千野秀一・岡野淳・中村隆一・齊藤功文氏4名の議員が北杜市長に対し、計画の見直しを国に積極的に働きかけるよう求め、問題の大きさを示していました。

今後の見通し

もうすぐ現地調査が行なわれ、また1月には地域住民への説明会が各地域で2回ずつ予定されており、それを既成事実として、早ければ3月には実施が決定されてしまいます。住民説明会や反対活動などを通じて今こそ多くの人々が強い反対の意思を示し、私たちの静かな生活を守らなければなりません。

一人でも多くの積極的な意思表示が必要です。

署名活動や国交省への抗議のハガキなどにご協力をお願いします。

団002-6

知っていますか？ 高速道路の新ルート案が発表されました！



計画段階評価中の高速は“整備なし”の可能性もあります。今後、国交省主催の住民説明会が6地域で12回開催されます。内容は2時間中、30分が説明、1時間半は住民との意見交換の予定です。これは、地域の声を聞きながら、計画段階において事業評価を行う新しい国の取り組みの試行です。私たちが意見を言わなければ2月末にでも新ルート的高速道路整備が確定するかもしれません！より多くの方に、早くこの情報を知らせ、しっかりと考えて行動して頂けるよう、ビラを配布しています。

* 現在、国交省は笹子トンネル事故の対応に追われ、住民説明会の日程は未定となっています。



国土交通省 関東地方整備局 平成24年11月21日発表 中部横断自動車道(長坂～八千穂)の新ルート帯2案

詳しくは、裏面へ！

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団002-7

Q1. あなたにとって、ハヶ岳南麓を横断する高速道路は必要ですか？

A1. “笹子トンネルの天井崩落”の改修をはじめ、今後も老朽化した高速道の整備に莫大な予算が必要となります。現在日本の累積債務は1000兆円以上。中部横断道（長坂～八千穂）ルートは採算が取れない為、国の直轄事業として国税により整備されます。（インター整備に関しては市や県の負担も見込まれます。）ましてや、新しく道路を作るとなると、そのメンテナンスにもさらなる費用がかかります。不要不急の高速道路に、投資する余裕はありません。子や孫の世代に負の遺産を残さないよう、一人ひとりが考えなければなりません。

A2. ハヶ岳南麓は日本の財産です。道路整備により、美味しい水、澄んだ空気、美しい星空などの自然環境や、雄大な裾野を広げるハヶ岳の景観は破壊され、豊かで静かな環境を求めて訪れる“観光客”や“移住者”も激減します。高速道路の通過点となり、地域の観光業も衰退します。

A3. 新ルート帯には多くの優良農地、湧水、野鳥やヤマメなどが住む森林が点在しています。動物達の住処も失われ、畑の作物を荒らす“鳥獣被害”が増加する危険性があります。

A4. 4、5メートルの高さの盛土で幅20mの道路が予定されていますが、おおよそのルートは1km幅で示され、詳細のルートは環境アセス段階でしか明かされません。後継者不足で、持て余している田畑が転売できる可能性はどれくらいあるのでしょうか？高速道路脇の土地に住宅を建てたい人がどのくらいいるのでしょうか？

A5. 3.11以降、私たちは身近な日常の大切さを思い知らされました。震災前の私たちの社会の在り方、価値観、こうしたものを一から見直す必要があります。国交省（国）の政策をしっかりと見定め、不要なものにははっきりと“NO”と言える地域社会・住み良い北杜市を実現しましょう。

近日中に“行政区の回覧”等で、周知される事と思いますが、是非興味を持って頂き“ハヶ岳南麓の自然を守る活動”につなげて頂きますようお願い致します。

■詳細は、「中部横断自動車道ハヶ岳南麓の会」<http://cyubu-odando.nanroku.net/>
最新のトピックスなどは<http://chubuodando8-topics.blogspot.jp/>
*トピックス内「中部横断自動車道をめぐる国交省の不可解な動き」にも注目！

■問合せ先：
中部横断自動車道（長坂～八千穂）計画段階評価事務局
国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 計画課 TEL 055-254-6571
北杜市建設部道路河川課 TEL 0551-42-1363 FAX 0551-42-2235

*今後も賛同店、賛同者のご連絡をお待ちしております。

■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団003-1

吉岡 大蔵さま

北杜市大泉の住居を終の棲家にとってもって11年の歳月を送っているものです。昨年末に国交省から提案された新ルートが丁度真ん中に位置しています。当然ですが新ルート提案については反対です。新ルートの地域に住む者にとって静かな生活を奪われる不安と怒りは大きなものがあります。

ですから短期間で行政の末端組織である下井出地区東組(22世帯)で「高速道路反対対策委員会」が出来、さらに広い範囲での「新ルート沿線住民の会」が立ち上がろうとしています。

中部横断道の建設にあたって地域住民の意見を聞くことを最優先にしてほしいと考えています。以上から地域住民の意思を表している情報(チラシ等)を定期的に送らせていただきます。



団003-2

静かな生活を破壊する 高速道路に反対します

11月21日発行の国交省の中部横断道の変更ルート図によりまずと、ここ大泉町下井出地域を通ることが明らかにされています。

私たち大泉町下井出地域に生活をしている下井出東組(22世帯)は静かな生活を破壊する高速道路に反対します。

これまで提案されていたルートは八ヶ岳大橋を通り別荘地を通って長坂インターに至るものでした。そのルートが別荘地の多くの人たちの反対運動で立ち往生となり急遽、変更ルートが11月に発表されたのです。考えてください。下井出東組の多くの方は自然の中で静かな生活を求めてここ大泉にきた人たちです。美しい景観、美味しい水と空気、このかけがえのない財産を台無しにしてしまう高速道路はいりません。

大泉・大根のみなさん。私たちの「静かな生活を破壊する高速道路に反対」する運動にご理解くださるようお願いいたします。ともに変更ルート撤回に向けて声を上げることをお願いいたします。

本日12月8日に予定されていた現地調査は延期

本日12月8日に予定されていた現地調査は笹子トンネルの崩落事故のため延期されました。笹子トンネル崩落事故は、建設後30~40年経った高速道路の補修点検が急務であることを意味しています。

私たちの命を守るために、新しく高速道路を作るのではなく、今ある日本中の道路を入念に点検し、整備することが求められています。

住民アンケートでは、北杜市民の53%以上が、新しい高速道路建設ではなく、一般道(国道141号)の改良を望んでいます。住民の意向を尊重した施策を望みます。

2012.12.8 大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会

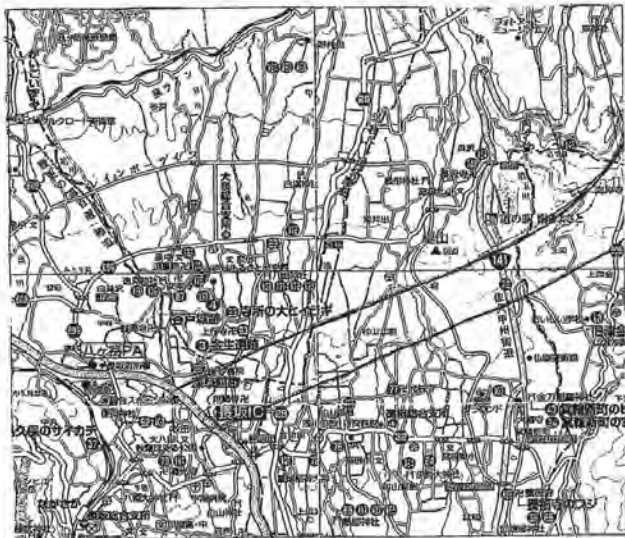


■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

図003-3

資料 長坂インター周辺地図と変更ルート



この件についての問い合わせは

国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所計画課

TEL 055-254-6571

北社市役所道路河川課

TEL 0554-42-1363

図003-4

美しい景観・静かな生活環境を 守るため高速道路に反対します

趣意書

平成24年11月21日に、中部横断自動車道が長坂インターから大泉町下井出—高根町村山北割—須玉町海岸寺方面を横断する新ルート計画が国交省甲府河川国道事務所より公表されました。

この周辺には、多くの地元住民や美しい景観・静かな生活環境を求めて移住してきた人たちが自然と共生し過ごしています。

先の住民アンケートでは北社市民の53%以上が、新しい高速道路の建設よりも、一般道(国道141号線)の改良を強く要望しています。もうすぐ現地調査や住民への説明会が行なわれますので、私たちの声が活かされるよう、今一人でも多くの反対の声をあげることが必要です。

日本でも数少ない景観・環境に恵まれた美しい町を守りましょう！！

目の前に高速道路が通り、騒音や排気ガスなどで汚れた町にならないよう、「高速道路反対」の運動にご協力をお願いします。



平成24年12月28日
大泉町下井出地区
東組高速道路反対対策委員会

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

国003-5

高速道路建設に反対する立看板を設置しました



新ルート案沿線地権者のご協力をいただいて看板を立てました。

北杜市議会での質疑応答

12月21日に行なわれた北杜市議会で千野秀一・岡野淳・中村隆一・齊藤功文氏4名の議員が北杜市長に対し、計画の見直しを国に積極的に働きかけるよう求め、問題の大きさを示していました。

今後の見通し

もうすぐ現地調査が行なわれ、また1月には地域住民への説明会が各地域で2回ずつ予定されており、それを既成事実として、早ければ3月には実施が決定されてしまいます。住民説明会や反対活動などを通じて今こそ多くの人々が強い反対の意思を示し、私たちの静かな生活を守らなければなりません。

一人でも多くの積極的な意思表示が必要です。

署名活動や国交省への抗議のハガキなどにご協力をお願いします。

国003-6

知っていますか？ 高速道路の新ルート案が発表されました！



計画段階評価中の高速は「整備なし」の可能性もあります。今後、国交省主催の住民説明会が6地域で12回開催されます。内容は2時間中、30分が説明、1時間半は住民との意見交換の予定です。これは、地域の声を聞きながら、計画段階において事業評価を行う新しい国の取り組みの試行です。私たちが意見を言わなければ2月末にでも新ルートの高速道路整備が確定するかもしれません！より多くの方に、早くこの情報を知らせ、しっかりと考えて行動して頂けるよう、ビラを配布しています。

*現在、国交省は笹子トンネル事故の対応に追われ、住民説明会の日程は未定となっています。



国土交通省 関東地方整備局 平成24年11月21日発表 中部横断自動車道(長坂〜八千穂)の新ルート帯2案

詳しくは、裏面へ！！

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月7日)

団003-7

Q1. あなたにとって、八ヶ岳南麓を横断する高速道路は必要ですか？

A1. “笹子トンネルの天井崩落”の改修をはじめ、今後も老朽化した高速道の整備に莫大な予算が必要となります。現在日本の累積債務は1000兆円以上。中部横断道（長坂～八千穂）ルートは採算が取れない為、国の直轄事業として国税により整備されます。（インター整備に関しては市や県の負担も見込まれます。）ましてや、新しく道路を作るとなると、そのメンテナンスにもさらなる費用がかかります。不要不急の高速道路に、投資する余裕はありません。子や孫の世代に負の遺産を残さないよう、一人ひとりが考えなければなりません。

A2. 八ヶ岳南麓は日本の財産です。道路整備により、美味しい水、澄んだ空気、美しい星空などの自然環境や、雄大な裾野を広げる八ヶ岳の景観は破壊され、豊かで静かな環境を求めて訪れる“観光客”や“移住者”も激減します。高速道路の通過点となり、地域の観光業も衰退します。

A3. 新ルート帯には多くの優良農地、湧水、野鳥やヤマメなどが住む森林が点在しています。動物達の住処も失われ、畑の作物を荒らす“鳥獣被害”が増加する危険性があります。

A4. 4、5メートルの高さの盛土で幅20mの道路が予定されていますが、おおよそのルートは1km幅で示され、詳細のルートは環境アセス段階でしか明がされません。後継者不足で、持て余している田畑が転売できる可能性はどれくらいあるのでしょうか？高速道路脇の土地に住宅を建てたい人がどのくらいいるのでしょうか？

A5. 3.11以降、私たちは身近な日常の大切さを思い知らされました。震災前の私たちの社会の在り方、価値観、こうしたものを一から見直す必要があります。国交省（国）の政策をしっかりと見定め、不要なものにははっきりと“NO”と言える地域社会・住み良い北北市を実現しましょう。

近日中に“行政区の回覧”等で、周知される事と思いますが、是非興味を持って頂き“八ヶ岳南麓の自然を守る活動”につなげて頂きますようお願い致します。

■詳細は、「中部横断自動車道八ヶ岳南麓の会」<http://cyubu-odando.nanroku.net/>
最新のトピックスなどは<http://chubuodando8-topics.blogspot.jp/>
*トピックス内「中部横断自動車道をめぐる国交省の不可解な動き」にも注目！

■問合せ先

中部横断自動車道（長坂～八千穂）計画段階評価事務局
国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 計画課 TEL 055-254-6571

北北市建設部道路河川課 TEL 0551-42-1363 FAX 0551-42-2235

*今後とも質問、質問者への連絡をお待ちしております。

■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月21日)

国004-1

吉岡 大蔵さま

1月12日に「新ルート沿線住民の会」の設立総会がありました。参加者名簿だけで236人の人たちが集まりました。会場のいすがりなくなり玄關わきにあるソファを押し込みました。会場の改善センターではこれまでで一番の人の集まりと思われました。ルート対象者以外の多くの人も心を痛めていることが感じられました。

ルート対象者の移住者の多くはここ10年くらいの間に南アルプスと八ヶ岳を望めるこの地に住み始めたものです。15年前に長坂にジャンクションが作られることが決定していると聞きました。必要な高速道路は長期的な考えのもとで決められるものです。

今問題になっている中部横断道の新ルートの提案は昨年11月に提案されて住民への説明会が行われようとしています。15年前に大まかでもルートの提案をしておけば移住者のほとんどの人が救われていたと思います。国土交通省の今回のアンケートの取り方に始まってルートの変更に至らずに騒いで怒りを感じます。

2013年1月19日

国004-2

美しい景観・静かな生活環境を守るため高速道路に反対します

署名活動を開始致しました！

中部横断自動車道新ルート案の撤回と国道141号線の改良を求める意思表示として、署名活動を開始しました。まずは、下井出地域の皆様に活動の報告も兼ねた個別訪問をし、多くのご賛同をえて順調に進んでいます。

新しい反対運動が立ち上がっています！

1月12日(土) 13時30分～

“中部横断自動車道新ルート沿線住民の会”の設立総会が高根町農業環境改良センターにて予定されています。より多くの方が自由に反対活動に参加して頂けるように、行政区外の方たちも大勢参加されています。私達“大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会”も協力しながら共に反対活動を推進します。※会場にてステッカー・ハガキの販売があります。

あなたの気持をハガキで国交省に伝えましょう！

これまでの反対活動でも、ハガキ・手紙・電話での個人的な反対の意思表示が、“国交省のルート変更”という動きに至らせました。私達“大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会”でも、1000枚の反対ハガキを作成し、賛同者に実費で購入、発送して頂いています。※ハガキご希望の方は [] にご連絡をお願いします。

ハガキ・メールの宛先（HPから意見・要望が入力できます）

国土交通省（本省）〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 中央合同庁舎3号館

岩田 美幸 国土交通省大臣官房技術調査課 技術企画官

坂 克人 国土交通省大臣官房公共事業調査室

<https://www.mlit.go.jp/road/soudan/form/iken.html>



平成25年1月11日 No.3

大泉町下井出地区

東組高速道路反対対策委員会

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月21日)

団004-3

ルポ — 提案された新ルートを行く! —

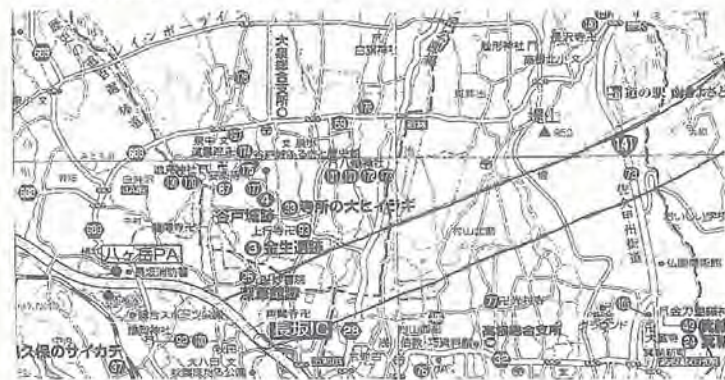
11月21日に新たに提起された中部横断道新ルートは津金にある海岸寺から長坂インターに向けて1Kの幅で一直線にひかれています。12月某日、長坂インター周辺から海岸寺までをどんな集落があり、どんな人々の生活があるのか東組の数人でルート探索をしてみました。

長坂インターからすぐにインター通りに当たります。北は金生道跡から南はインターそばのホテルまでがルート幅になっています。

ルートは甲川・油川とその周辺の集落と県道を横切る形になっています。私たち東組の家もそこに含まれているのです。高根町に入っただけで森に入ります。森の中は驚くほどに別荘が点在していました。この別荘の人たちにとっても高速道路の建設は自然の中での静かなやすらぎの時は破壊されます。

森を抜けるとJ A 梨北や三階建ての市営住宅のある集落にでます。そこからは標高 950m の堤山が目の前に現れます。堤山の南には堤集落があります。ルートはレインボーラインを越し、堤山の南側を通り国道 141 号を横切ることになっています。この周辺は人家がありません。川俣川を越え津金方面に入っても同様です。リンゴ畑を主に田畑が続く津金。そして海岸寺、浅川の集落、樫山の集落と続きます。

静かで自然豊かなこの地域を高速道路が切り裂くことに多くの人が心を痛めると思いました。高速道路のメリットを説く人がいます。しかし、このルートの住民にとってどんなメリットがあるのでしょうか。静かな生活を営んでいるこの地域の人々にもたらされるものは景観の破壊と騒音と排気ガスそして高架ともなれば田、畑、家屋の日照や風の影響も避けられません。多くの人々に犠牲を強いる高速道路はいらないと改めて強く感じたルート探索でした。



計画段階評価中の高速道路は、皆さんの意見で決まります！ 民意を反映させた「新しい道路行政の成功例」となるよう、私達の活動へご協力をお願い致します。

団004-4

知っていますか？ 高速道路の新ルート案が発表されました！



あなたも 「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」に参加しませんか？

日本でも数少ない素晴らしい景観・自然・静かな生活環境は、これまで皆さんが必死に守り続けた大切な宝です。一度失ったらもう二度と手に入れることができないこの大切な財産を守るため、今すぐに反対の声を上げましょう。国土省のアンケート調査でも50パーセント以上の北杜市民が、国道141号線の拡充整備を求めているにもかかわらず八ヶ岳南麓に高速道路をつくらうとしています。

私たちはこの計画を阻止するため「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」を設立することとしました。

地元住民も新住民も別荘の人も沿線以外の人も、ひとりでも多くの人がこの会に参加して新ルートを撤回し、国道141号線の改良を求めましょう。

下記により、設立総会が開催されますので、ぜひ参加してください！

- 日 時 : 平成25年1月12日(土) 13時30分より
- 場 所 : 高根町農村環境改善センター (高根図書館の隣です)
山梨県北杜市高根町村山北割 3288 電話 0551-47-3970

計画設計段階評価中の高速は「整備なし」の可能性もあります。今後、国土省主催の住民説明会が6地域で12回開催されます。内容は2時間中、30分が説明、1時間半は住民との意見交換の予定です。これは、地域の声を聞きながら、計画段階において事業評価を行う新しい国の取り組みの試行です。私たちが意見を言わなければ、2月末にでも新ルートの高速道路整備が確定するかもしれません！より多くの方に、早くこの情報を知らせ、しっかりと考えて行動して頂けるよう、ビラを配布しています。

*現在、国土省は笹子トンネル事故の対応に追われ、住民説明会の日程は未定となっています。

「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月21日)

団004-5

Q1. あなたにとって、ハケ岳南麓を横断する高速道路は必要ですか？

A1. "笹子トンネルの天井崩落"の改修をはじめ、今後も老朽化した高速道の整備に莫大な予算が必要となります。現在日本の累積債務は1000兆円以上。中部横断道(長坂~八千穂)ルートは採算が取れない為、国の直轄事業として国税により整備されます。(インター整備に関しては市や県の負担も見込まれます。)ましてや、新しく道路を作るとなると、そのメンテナンスにもさらなる費用がかかります。不要不急の高速道路に、投資する余裕はありません。子や孫の世代に負の遺産を残さないよう、一人ひとりが考えなければなりません。

A2. ハケ岳南麓は日本の財産です。道路整備により、美味しい水、澄んだ空気、美しい星空などの自然環境や、雄大な裾野を広げるハケ岳の景観は破壊され、豊かで静かな環境を求めて訪れる"観光客"や"移住者"も激減します。高速道路の通過点となり、地域の観光業も衰退します。

A3. 新ルート帯には多くの優良農地、湧水、野鳥やヤマナなどが住む森林が点在しています。動物達の住処も失われ、畑の作物を荒らす"鳥獣被害"が増加する危険性があります。

A4. 4、5メートルの高さの盛土で幅20mの道路が予定されていますが、おおよそのルートは1km幅で示され、詳細のルートは環境アセス段階でしか明かされません。後継者不足で、持て余している田畑が転売できる可能性は、いくらいあるのでしょうか?高速道路脇の土地に住宅を建てたい人がどのくらいいるのでしょうか?

A5. 3.11以降、私たちは身近な日常の大切さを思い知らされました。震災前の私たちの社会の在り方、価値観、こうしたものを一から見直す必要があります。国交省(国)の政策をしっかりと見定め、不要なものにははっきりと"NO"と言える地域社会・住み良い北杜市を実現しましょう。

近日中に"行政区の回覧"等で、周知される事と思いますが、是非興味を持って頂き"ハケ岳南麓の自然を守る活動"につなげて頂きますようお願い致します。



団004-6

ハケ岳ジャーナル

1982年12月創刊 発行日:毎月1日と16日発行

中部横断道反対で、住民の会発足

国道141号の改修求め、新たな行動へ



中部横断道WGが、ルート視察を実施
今月30日から、地元説明を開始

中部横断道WG(ワグ)が、1月15日(土)午後1時、北杜市下井出地区のハケ岳南麓を視察した。WGは、中部横断道(長坂~八千穂)の新ルート帯2案をめぐり、地元住民と意見交換し、ルート視察を実施した。WGは、1月30日(土)から、地元説明を開始する。WGは、1月15日(土)午後1時、北杜市下井出地区のハケ岳南麓を視察した。WGは、中部横断道(長坂~八千穂)の新ルート帯2案をめぐり、地元住民と意見交換し、ルート視察を実施した。WGは、1月30日(土)から、地元説明を開始する。

説明会場	日時
大泉総合会館	1/31 19:30~ 2/10 14:00~
真飯新会館	1/30 19:30~ 2/3 14:00~
高根山村環境改善センター	2/1 19:30~
高泉新館ホール	2/2 14:00~
清宮大正館(農業体験講座会場)	2/13 19:30~
美玉ふれあい館	2/16 14:00~
小泉総合会館	2/2 14:00~ 2/5 19:30~
平谷公民館(真野)	2/12 14:00~

北杜市の地域新聞

ハケ岳ジャーナルは、北杜市を対面した地域新聞です。毎月1日と16日の2回、北杜市内の各町に配布されています。ニュースの提供、告知、広告掲載の申し込み、また、定額購読(年間3000円)と定額購読(半額)の申し込み、お申し込みは、〒368-0001 北杜市下井出地区 北杜市地域新聞編集局 TEL:0551-46-2756 FAX:0551-35-8200 ホームページ: http://www.webtoday.jp/

■「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」からの文書

(平成25年1月21日)

団004-7

(新聞記事複製許可)

中部横断道清里迂回ルート

反対派が「住民の会」設立

国交省の現地調査に抗議

中部横断自動車道の長坂・長野・八千穂間の山梨側迂回ルートについて、国土交通省が清里高原を迂回するこの新ルート案を示したことを受け、北杜市の自治体長が19日、計画反対を訴える新団体を立ち上げた。同区間の建設に反対する住民グループは6団体のこの日国土交通省の専門委員会による新ルート案沿線の現地調査もあり、新団体のメンバーが機嫌会場へ詰め寄り、「住民の声を聞け」と声を張り上げる場面もあった。

新たに発足したのは、八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会。同市内で開かれた設立総会には、自治体住民や建設反対派の市議ら

人、既存の反対団体の代表ら約250人が参加。自然環境や生活に悪影響が出るとして、高速道路の新設に反対する設立趣意書を採択し、開会に近く要請書提出することを決めた。

は兼で「ワシントンネットワークサービス」を活用し、市や県の税を越え活動を開始する」と強調した。

同区間をめぐっては、国交省社会資本整備審議会の関東地方小委員会が昨年4月に整備方針を決定。国交省は当初、清里高原を横断するルート案を示していたが、市民や別荘所有者からの反対を踏まえ、昨年11月、清里高原を迂回する二つの新ルート案を示した。

この日は案から、採用するルート案を検討している小委員会の専門家が、沿線での現地調査。自然環境や集落の状況のほか、同市高根町村の御車道1号やレイン平ライオン、中部横断道と連結させる機橋地帯を視察した。

専門家が視察のため訪れた同市役所大衆総合支所には、建設反対のプラカードを掲げた同会のメンバー約40人が詰め寄せ、「自然を壊す高速道路はいらない」「住民の意見を無視するな」と声を上げ、国交省府内国道事務所跡の幹理に詰め寄る場面もあった。

(堀田博)

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの文書

(平成25年2月27日)

発行 説明会 団005-1
取寄先(株)

住民との対話なき「早期建設」の説明会

皆さんに訴えます !!

北社は本日2月27日の中部横断自動車道長坂～八千穂間の八ヶ岳南麓新ルート案の「早期建設」の説明会を、一般住民を締め出し行おうとしました。しかし、多くの住民の強い抗議でようやく説明会への参加・傍聴を認めました。

道路建設には多くの家や田畑や景観が犠牲になります。ですから、地域によっては道路建設に住民が参加して構想段階から検討がされるようになっていきます。しかし今回の中部横断道(八千穂～長坂間)の新ルート提案はこれまでのアンケートにも全く提案されていないルートが突然な形で出されました。当然にも多くの人が全くの「寝耳に水」のことであり、不安に陥り、憤り、納得できませんでした。

私たちは中部横断道に反対しているのではありません。新ルート案を撤回し八千穂・長坂間の山梨県側に関して「どのような道路にするのかルートはどうかを住民がともに考えてより望ましい答えを出すプロセスを作りたい」と願っているのです。

国交省が突然に提案した新ルート提案を容認して早急に進めるといふ北社の考えとはその点で真向から異なっています。

北社は「災害時の代替路の必要性」を主張しています。長野県側のように国道141が1本しかない状態なら代替路が必要です。しかし八ヶ岳南麓は八ヶ岳横断道、国道141号、県道28号線、広域農道をメインに網の目のように道が作られています。

国の説明会では今回提示された新ルート案には多くの問題があることが明確になりました。そのことを冷静になって考える必要があると私たちは主張しています。

八ヶ岳南麓新ルート案地域は国交省による「日本風景街道」の一つ、「八ヶ岳南麓風景街道」として登録されている地域です。ほんの一時期の人間の満足を得るために、私たちの宝、八ヶ岳南麓の自然を破壊して良いのでしょうか。

北社は、北社市民憲章に基づき「環境日本一の潤いの杜づくり」を目指しています。この言葉にたがわず住民とともにある市政を進めてほしいと願っています。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの文書

(平成25年2月27日)

2/27 説明会 国005-2
青島市青島区

私はこう思う

新しい高速道路の建設よりも、
既存の道路をずっと使っていけるようにすることが先

昨年12月2日の世子トンネルの天井陥落事故以来、トンネルや道路などのインフラの老朽化が指摘されています。中央道は建設以来35年が経過してこれからの維持管理に多大な費用を要し、系内の道路も補修が必要な道路やトンネルが多数ありますが、こういう現状の中で国は既存の道路の建て替え費用はおろか維持管理に回す費用は計上せず、新しい高速道路・中部横断道の建設を進めようとしています。

これは誰が考えても順番が逆です。まず、今ある道路をきちんと整備することが大切です。今ある道路に何かあれば、買い物や外出など日常生活もままならなくなってしまふことは明らかで、住民にとっては生活の安心、安定が一番の課題です。

山梨県内では、12年4月時点で補修が必要な市町村管理の橋674本のうち、実際に補修されたのはわずか9本、1.3%にとどまっている現状です。これからこの橋は、道路はいったいどうなっていくのでしょうか。トンネルも同じです。甲府の愛宕トンネルでは、1月27日にモルタルがはがれて落下する事故が起きました。

中部横断道に2000億円の巨額の費用をかけるなら、それを既存のインフラの整備に当ててもらいたいものです。

「能越自動車道」づくりから学ぶ

今回の両麓での説明会で、国の政策決定に一筋縄では住民の声＝民意が反映し難いということが浮き彫りになった。しかし、以下のようにすすめれば民意は反映出来る。

「能越自動車道」では、合意作りをすすめる基本的考え方を「構想段階における住民参画の取り組みを推進する」とし、「みちづくり懇談会」を設け、その中に地域に不可欠な住民8人をワーキンググループ(WG)として設置、延べ700人もの参加者を9グループにわけ、8ヶ月間に6回のみちづくり懇談会と15回のWGを開催し、ルート帯案を議論した。その際、参加者全員が自らマジックで航空写真にルート帯案を描き、かつ、帯案沿線の町会ごとにタウンミーティングを開催。そして8つの案から総案として1つにまとめ上げた。(事務局は国と地方自治体とし一情報提供・資料作成のみ)。教訓として田中氏は、「行政側より複数のルート案を提示するのでなく、住民自らがルート案を決め、比較、検討する」ことが重要だとし、また、そのようにすすめれば、「必然的に、個人的な希望・要望は通用せず、将来の地域に望ましいみちづくりへ論点は絞られる」と述べている。この経験は中部横断道でも生かされねばならない。

資料 一能越自動車道(田代浜一七尾)みちづくり懇談会の取り組み
国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 調査第二課



国による地元説明会終わる

問題点について、国から明確な説明なし

1月30日から2月16日まで、計10回(そのほか平沢で1回)の国交省の地元説明会が行われました。ほとんどの会場で200人を超える参加者がありました。会場では質問、意見が相次ぎ、時間切れで閉会のパターンが繰り返されました。

国は、質問には決まって「ワーキンググループに伝える」「データはない」など、一方的な説明に終始しました。

WGの委員が説明会に出席するべきなのです。それにしても「交通量データも高速の必要性を裏付けるデータもなく、ただ「高速ありき」だけで物事が進んでいます。そして、わずか3人の委員が神技で沢山の叫びを受け止め、この重大なルートの決断を遠く東京で行おうというのです。許せませんか、私たちの思いを。

会場からは「早く日本海を見たい」の声もありました。夢を語るのは自由ですが、2,000億円の借金をして、孫子の代につけ回すことになってからは知らんというのでしょうか。

国道141号線の改良を望む声が沢山出ました。国も「脆弱」「危険」「急カーブ」「幅員が狭小」などと回答、ならば改修は緊急の課題です。

ぜひ国道を住民参加で使いやすく安全で走行性の高いものにして、かつ地域振興にも役立つよう皆で議論を始めることができたらと思います。国、県、市はその議論の場を整えてほしいと切に思います。

2/27 北杜市主催で区長など対象に説明会 —— 住民は締め出し

市は、早期建設を求めていることに理解を得たいと2月27日(水)高根ふれあいホールで、区長、商工会、観光協会、地域委員ら500人を集めて説明会を開催する。市は「一般市民は入場できない」とし、「市民対象の説明会の予定もない」と回答。ルートがどこの場所でも早くできれば良いとでもいうのだろうか。高速の影の部分や心配する多くの市民の声を拾い上げる努力を放棄したのだろうか。それでは不公平、市民対象の説明会の開催を求めます。

＊沿線住民の会の抗議により、入場およびホールでの傍聴が可能になりました。多くの方の参加を！ 当日チラシを配布します。

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書 (平成25年2月28日)

団006-1

2013年2月28日

国土交通大臣 太田昭宏 殿
社会資本整備審議会
関東小委員会委員長 石田東生 殿
山梨県知事 横内正明 殿
北杜市長 白倉政司 殿

中部横断自動車道（長坂一八千穂） の「計画段階評価」に関する 申入れ書

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会

団006-2

2013年2月28日

国土交通大臣 太田昭宏 殿
社会資本整備審議会
関東小委員会委員長 石田東生 殿
山梨県知事 横内正明 殿
北杜市長 白倉政司 殿

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会

中部横断自動車道（長坂一八千穂）の「計画段階評価」に関する申入れ書

中部横断自動車道八ヶ岳南麓の会等をはじめとする4つの団体の申入れ（「中部横断自動車道建設に関する申入れ」2012年8月30日-添付資料1）、北杜市別荘所有者の会の「要望書」（2012年9月15日-添付資料2）、国土交通大臣に対する5000名を超える署名簿提出（レインボーの会など、八ヶ岳南麓を通る高道道路建設に対し、これまで非常に多くの反対、懸念が示されてきました。しかしながら、新ルート案（2012年11月21日発表）でも八ヶ岳南麓を通過することにはなんの変化もなく、2回にわたるアンケート結果を踏まえたとしても考えられない案を提示しました。2013年1月30日から「地元説明会」が行われましたが、小委員会石田東生委員長の提案（2012年10月4日、関東小委員会）であった「丁寧なコミュニケーション活動」とはほど深いものでした。新ルート沿線住民の会も国交省への申入れ（2013年2月5日-添付資料3）、北杜市長宛申入れ（2013年2月6日-添付資料4）、4600名を超える署名簿提出（2013年2月6日）など、様々な働きかけを行ってきましたが、国交省は未だ回答していません。

国交省は公共事業の透明性を高め、事業の必要性が検証できることを基本として、「計画段階評価」を導入し、地元に丁寧説明し理解が得られなければならないこと、建設する道路が地域に望まれない道路であってはならないことを明確に打ち出していますが、地元説明会では北杜市民、市内別荘所有者から非常に多くの反対や異論、疑問が出され、国交省は十分応えることが出来ませんでした。

これまでの国交省の混乱した対応から、地元には大きな亀裂が生じつつあります。地元説明会に至るまでのプロセスをもう一度、初心に戻って、「アンケートから導き出した周辺地域の課題」が本当のところ、どこにあるか探らなければ、この地域に取り返しがつかない事態を招くことになりかねません。北杜市民、別荘所有者など八ヶ岳南麓地域に関わる多くの方々々が賛否を越えて議論に参加することが、「地域の課題」を住民の意向に添って解決する唯一の方法です。地元説明会は双方向的なコミュニケーションではなく、国交省による一方的な意見聴取の場でしかありません。住民の意向が反映されないのであれば、計画段階評価システム自体が機能しないこととなります。公共事業に関わる政策決定プロセスに国民の意向を反映させることが、「だれが何のために使う」という道路の最も重要な課題と結びついています。

私達は、中央自動車道接続地点に至る山梨県側の中部横断自動車道ルートの選定を住民参加のもとで決めることを求めて、以下の提案を致します。

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書 (平成25年2月28日)

団006-3

国土交通省は、中部横断自動車道の長坂（山梨県長坂町）―八千穂（長野県佐久穂町）34 km区間について、公共事業の透明化と効率化を図る「計画段階評価」を試行中ですが、建設新ルート候補エリアである山梨県北杜市での民意が汲み上げられていません。このため、「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」は、計画段階評価の運用改善と、国交省が標榜する「市民参加型道づくり」という政策手法等の活用を申し入れます。

記

1 中部横断自動車道の新ルート案についての「地元説明会」が、2013年2月16日まで約2週間、北杜市内10会場で開催、終了しましたが、この場で市民から寄せられた多数の質問、問題提起に対する誠実かつ合理性のある回答が、2月28日現在もされておられません。

これは公共事業の計画段階から地域住民の民意を計画に反映させる「パブリックインボルブメント（PI）」を基本に据えた「市民参加型道づくり」という国土交通省の道路行政の基本理念と明らかに矛盾するものです。

加えて、計画段階評価は、「社会資本整備審議会 関東地方小委員会（石田東生委員長）」の下で進められ、2012年10月4日の同小委員会は「丁寧なコミュニケーション活動（地域住民・別荘所有者と国との対話）を行っていく必要がある」で合意、了承しましたが、いまだに国交省から誠実かつ合理性ある回答がない事実は、丁寧なコミュニケーションの不成立・否定を意味するもので、この小委員会の合意に反しているのは明らかです。

以上の理由から、「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」は、計画段階評価の今後の運営の“スタート地点”“大前提”となる、別添文書の質問、問題提起事項への文書による回答を、2013年3月16日を期限に国交省に求めます。

2 長坂―八千穂間の道路整備について、「地域住民の、地域住民による、地域住民のための道づくり」という民主主義の基本理念に立ち、すでに国交省が全国約30地域で成功事例を積み上げている「PIによる市民参加型の道づくり」という政策手法等を提案します。

3 「丁寧なコミュニケーション活動」の実現のため、関東小委員会委員と北杜市民・別荘所有者との定期的な協議の場を設置、今後、PI協議の場に移行・発展させることを提案します。

4 上記1、2、3について、3月16日までに文書による合理性のある回答、および賛否の意思表示がない場合は、意思決定権者など関係各所と直接、協議させていただきます。

以上

団006-4

質問・問題提起事項

決定権限と業務分掌について

ワーキンググループ、関東地方小委員会、道路分科会、社規資本整備審議会の人的構成、機能、特に決定権限の範囲等業務分掌の開示を求める。

なぜ長坂なのか、その決定経緯

1 長野県佐久市と静岡県清水市を結ぶ中部横断自動車道の1997年2月5日公示の基本計画で、中間建設区間について、八千穂―長坂JCTとなり、長坂の名前が突如、浮上したのはなぜか。国土交通省に質問しているがまだ回答がない。なぜ、回答しないのか。国幹会議でどのような議論を経て長坂になったのか。その決定経緯と論拠を記す資料の提出を求める。

第1回WG（2012年11月21日）で、久保田座長がわざわざ長坂が連結点となることに言及して他委員からの同意を取っていたが、審議会や役所の手続としてはそれが正しくとも、非常に多くの地元住民が長坂であることに同意しておらず、なおかつ国交省が今までの議論の経緯等を説明できないのであれば、すなわち長坂JCTルートの合理性がなくなることの意味し、この計画自体認められないのではないかと考えられる。これに対する説明を求める。

2 2012年7月8日の意見交換会で明らかになったが、長野県側からは、長坂を起点に八ヶ岳南麓を通るルートへの要望やこだわりはなかった。北杜市側も長野県側もこのルートでなくても構わないというのが、住民の意思である。にもかかわらず、南麓ルートが生き残り、国道141号改良案が消えたが、その理由は何か。これに対する説明を求める。

3 説明会当初、国交省は「長坂」接続の技術的決定因として、「高度差を稼ぐ」ことを挙げ、須玉ICからは技術的に困難と明言してきた。須玉ICから国道141号線に沿った勾配図面（資料-5、資料-6）を提示した後（新ルート沿線住民の会作成資料）には、「須玉からのルートも技術的にも可能である」と説明会で変更したが、その理由はなにか。（資料-5、資料-6参照）

4 「長坂 IC 接続」の経済的理由として、「野辺山に至る長野県側と最短距離での接続」を挙げているが、長野県佐久市と静岡県清水市を結ぶ中部横断自動車道という視点からは、双葉 IC に比較的隣接した地点を選択するのが、高速道路の直線性、速達性にかんがみてより重要である。また、現状の物流の出入比率と方向、東京や甲府などへの優れたアクセス

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書 (平成25年2月28日)

団006-5

ス性、さらには、災害時のアクセスの良さなどからは、長坂 IC 付近の接続は極めて不合理である。長野県佐久市側からのアクセスを考えた場合でも、多くは甲府、東京方向であろう。また、小淵沢方向に向かう場合は、旧清里有料道路という優れた一般道が利用できる。

さらに重要なことには、須玉 IC 周辺への接続が可能となれば、近い将来、韮崎に至る国道を改修すれば、国道 20 号という地域社会の大動脈に接続でき、甲府盆地全体の活性化を促す可能性も大きい。以上のような視点をどのように考えているか、説明を求める。
アンケートの問題点

計画段階評価で最も重要な事柄は、「地域の意見聴取方法」であるが、そのベースがコミュニケーション活動としての質問調査、すなわちアンケートである。アンケートを行う初步的、基本的な考えは、複数の人に定型化した質問をして、定型化した回答を集めて、意見を数値化して比較することである。定型化した質問と回答選択肢によって、はじめて集計結果を客観的に偏りなく解釈が出来るようになる。そのため、アンケートの作成には極めて専門的な知識と統計処理が必要となる。また、作成ばかりでなく、対象となる人々の意見が偏りなく平均的に集められるためには、その母集団からのサンプリングには統計学的専門知識がなければならない。

ところが、質問項目作成、アンケートの配付、回収、集計等、いずれの段階でも、極めて恣意的、意見結果の操作などが行われており、小委員会（2012年4月12日）でもアンケート結果の処理について疑義が出ている。すなわち、計画段階評価の重要な柱となる部分に大きな問題があり、その結果出ているルート案自体の根拠が崩れている。

それらの具体的な問題は、昨年から様々なかたちで小委員会に対して質問が行われているが、国交省事務局も小委員会もあまりにも不誠実で無回答のままである。

国交省のデータをもとに私達のグループが数値化した結果を資料-7としておくので、詳細を検討し、以下の具体的質問に回答を求める。（資料-7参照）

1 アンケートの欠陥については、中部横断自動車道八ヶ岳南麓の会 [] が、2012年6月1日に国交省関東地方小委員会宛てに、第2回アンケート、およびその後の小委員会の審議のやり直しを求める手紙を送った。

にもかかわらず、いまだに委員会、石田委員長から正式の回答がないのはなぜか。

また、アンケート結果を受けて2012年4月に開かれた関東地方小委員会では、アンケートの集計方法の欠陥について、二村委員らから指摘があったにもかかわらず、これを無視して、6月に中間とりまとめをしたのはなぜか。

2 問題の住民アンケートとは①戸別配布②役場や国交省の地方事務所など出先機関に置く「留置配布」③ウェブアンケートだった。第一の問題は、北杜市の戸別配布枚数

団006-6

は21866枚に対し、アンケート対象区域外の佐久市が18730枚、小諸市が43933枚と、着工済みで、高速道路建設に賛成が多い、佐久、小諸でもアンケートを行った。このように、建設賛成で多数派工作したと取られても仕方がない行動をした理由は何か。第二の問題は、山梨県側の留置先では「各世帯に1枚」に制限する一方、長野側は、こうした制限がなく、反対が多い山梨側の意見を抑制する対応をした理由は何か。第三は、地域住民がよく行く市役所や支所は、配布枚数が少なく、建設業者などの出入りが多い、国交省や山梨県の出先機関には、1カ所で2000枚を配置。この偏向の理由は何か。その説明を求める。（資料-7参照）

3 回答の集計方法についても、詐欺的な行為が行われており、このアンケート結果の破棄を要求する。2回目のアンケートでは、そもそも、第1回アンケートの結果を受け、対象者に4案（①全線整備案＝フル規格②一部旧清里有料道路活用案③国道141号改良案④建設なし）について、第2回アンケートで4つの案について、「どれを支持するか」で賛成票の多い順に優先順位をつけるのが正当であるはずなのににもかかわらず、「②は～理由で反対。③を支持」という回答の場合、②③に言及しているという理由で、それぞれに1票が入る、という詐欺的な集計をし、建設賛成の結論を誘導している。Web回答を分析すると90%以上が、③案支持になっていることから、紙のアンケートの結果が地域の民意を表していないのは明らかである。このような詐欺的な集計方法をとった理由は何か。その説明を求める。（資料-7参照）

また、第2回アンケートの集計結果に使った具体的資料の提出を求める。

4 以上、アンケートの作成から集計に至るまで、アンケートについての専門家がこの作業に係ったのか、小委員会委員が係ったのか、その理由と説明を求める。

5 第2回アンケートの第3案が排除された小委員会の議論の過程を示す国交省事務局段階での内部資料を開示するよう求め、その説明を要請する。

国交省予算について

24年度補正予算及び25年度通常予算案が閣議決定されたが、その中で、中部横断道（佐久～八千穂～長坂）に関するもの計上の有無はどのようになっているか。その具体的な内容（基礎調査、環境アセス、地元コミュニケーション活動、等々）の説明を求める。

ルート帯 AB 案の交通量需要予測と採算の見通し

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書

(平成25年2月28日)

団006-7

団006-8

- 1 交通量の需要予測と採算見通しが明らかになっていないが、数値を出すべきである。需要予測もない段階で、ルートが絞られるというのは順序が逆である。なぜ、ルート案ごとの需要予測と収支計画が、議論の前提にならないのか。その説明を求める。
- 2 中部横断自動車道(長坂-八千穂)新ルートを前提とした交通量調査資料、費用対効果等の事業性についての資料、観光、産業誘致等の具体的資料の開示を求める。
- 3 国交省が掲げている「課題を解決するための目標」の定量化資料の開示を求める。すなわち、生産品の輸送時間の短縮データ、救急医療施設への移動時間短縮データ、現道の走行性、安全性の向上データ、災害時の代替路確保データ、企業誘致、雇用促進データである。
- 4 優良農地保護、地域振興に対する国交省の具体的計画資料の開示を求める。

八ヶ岳南麓地域経済へのダメージ

- 1 原発の誘致同様、高速道路建設の建設も、その賛否や用地買収などによって地域社会が分断されかねない。地域社会が破壊されかねないという懸念に対しどう対応してくれるのか。国交省としての説明を求める。
- 2 八ヶ岳南麓を南北に分断する新ルートだと、森林などの自然環境や、オオタカや生息数で日本一を誇るオオムラサキなどの希少動物の生育環境が破壊され、八ヶ岳の観光地、リゾート地としてのブランド価値が著しく損なわれる。このことから、地域の観光、飲食・サービス、不動産、建設業などの地域経済にとって大打撃となる。環境破壊と経済的損失についてどのように責任を取るのか。国交省としての説明を求める。
- 3 南麓ルートの開通によって、上記の自然環境や生態系だけでなく、観光地としての価値である「景観」もまた破壊され、その結果、リゾート地、観光地としての価値も低下し、地価や不動産価値の下落につながりかねないと考えられる。国交省としての説明を求める。
- 4 南麓ルートだと、物理的な距離の観点から、清里周辺にICを作るといふようなことになると、高根地区、大泉地区は、観光客に素通りされ、ホテル・ペンションなどの宿泊業や、飲食サービス業などにとって大打撃となりかねない。どういう対策をとるのか。国交省としての説明を求める。
- 6 夜間の高速道路の照明や自動車ライトで、星空観測地域としても知られる、美しい星

空空間が損なわれ、リゾート地としての価値が下がる。この光害を防ぐ手立てをどのように考えているか。国交省としての説明を求める。

- 7 観光地・リゾート地としての価値が下がれば、住宅や別荘の建設需要も減り、地元の建設業界、不動産業界は大打撃をこうむる。建設、不動産需要をどう確保するのか。国交省としての説明を求める。
 - 8 観光地・リゾート地としての価値が下がれば、将来、定住用に別荘を建てた人たちが、定住も別荘ライフも断念、利用されない空き別荘だらけになりかねない。どのように対処するのか、国交省としての説明を求める。
 - 9 南麓ルートに高速道路ができれば、八ヶ岳の自然に魅せられて移住してきた人が、他地域へ転出し、高根町、大泉町、長坂町だけで続いてきた人口増もストップする(資料-8)。それどころか、一転して人口減少へ転じ、税収が減り北杜市、山梨県財政も厳しくなる可能性も考えられる。税収減や転出を防ぐ手立てを国交省はどのように考えているか。説明を求める。(資料-8参照)
- ## 環境へのダメージ

- 1 八ヶ岳南麓では、井戸水を使っている住民・別荘所有者は多数存在している。高速道路によって地下水脈を毀損されれば、生活に重大な支障がでる。上水道の確保はどうか。国交省としての説明を求める。また、八ヶ岳南麓の山梨県側の水系、地下水脈の調査資料の開示を求める。
- 2 交通量が増えることで、排気ガスによる大気汚染や、騒音問題が深刻化し、自然環境だけでなく、定住住民や別荘住民の生活環境、住環境にも悪影響を与える。住環境のよい南麓に移住してきた化学物質過敏症の方がおられるが、排ガスが増えれば最悪命に関わる。国交省としての説明を求める。
- 3 八ヶ岳は日本有数の湧水の地域だが、高速道路建設をすれば、水源や地下水脈、さらには温泉の源泉を断つなど、計り知れないダメージを与えかねない。北杜市では、3カ所の湧水が名水100選に選ばれ、ミネラルウォーターの生産量は日本一。高速道路建設は、これらすべてに計り知れないダメージを与える。湧水、地下水の保全をどうするのか。国交省としての説明を求める。

災害時リダンダンシー確保の矛盾

- 1 長坂周辺には、糸魚川-静岡構造線断層帯がかかり、京都大学は「30年以内に地震

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書 (平成25年2月28日)

団006-9

が発生する確率が25%としているが、この断層を含め、八ヶ岳南麓から清里エリアまでの、断層、地震のリスクをどう評価をしているのかまた、AB案が跨ぐ川俣川付近の活断層の存在の有無を調査したことがあるのか。国交省としての説明を求める。

- 2 八ヶ岳南麓のルートには、土石流危険区域があるほか、湧水地域とぶつかる可能性が極めて高く、そのような地盤の弱い所にルートをとると、橋梁の耐震性の観点からも非常に危険である。土石流への対応や耐震性能をどう担保(補償)するのか。国交省としての説明を求める。

国土交通省の「日本風景街道」に登録認定されている「八ヶ岳南麓エリア」のモデルルートであるレインボーラインと八ヶ岳高原道路と旧清里高原道路で囲む「八ヶ岳南麓風景街道」は、高速道路を南麓ルートにとると、相互に干渉するが、この矛盾をどう説明するか。国交省としての説明を求める。

意見交換会の開催要求

2013年3月31日までに、新ルートに関する政策決定権限を有すると思われる小委員会、第三者委員会、もしくはワーキンググループとの地元における意見交換会の開催を要望する。また、地域で活躍する自然保護団体、自然環境や景観保全を訴えているグループとの積極的な意見交換会を同時期に開催するよう要望する。

さらに、八ヶ岳南麓の道路計画による影響を受ける沿線住民との意見交換会を2013年4月までに開催するよう要望する。また、市内別荘所有者の多い夏季において、今後も意見交換会を数多く開催するよう要望する。また、国交省による説明会等の開催情報を周知徹底するために、ホームページ等依存せず、その方法を改善するよう要望する。

今後の小委員会の開催予定の通知連絡と公開要請

本年3月以降に開催される小委員会の開催予定をできる限り、速やかに通知連絡するよう要望し、また、公平性の観点から広く公開するよう求める。

団006-10

住民参加の新計画案作りへの提案:

平成16年度 国交省国土技術研究会主催による自由課題(アカンタビリティ部門)に「能越自動車道(田鶴浜~七尾)みちづくり懇談会の取り組み」として、国交省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 調査第二課 [] 氏の論文の発表がなされており、

- ★高規格幹線道路事業の構想段階よりの住民参加による社会資本整備をめざし、
- ★最終的に、地域高規格道路に対し既存国道の活用を提案するに至った、とある。

私達は、上記に関連し、1月31日の大泉町の住民説明会場にて「国交省と地元住民参加によるアンケート案の作成~実施・集計」の提案を行っているが、最終的に新ルート沿線住民の会としての以下の提案をする。

- ★山梨県北杜市全住民の参加による基本計画から事業計画策定までの、PI (public involvement) による社会資本整備を目指す取り組みとする。

参考意見添付

- 資料9 中部横断自動車道八ヶ岳南麓ルート案(清里~長坂間)に対する意見書
- 資料10 中部横断自動車道(長坂~八千穂)建設反対の意見

■「中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会」からの申入書 (平成25年2月28日)

図006-11

道路勾配に関する資料 2013/3/1 申入書添付資料 4

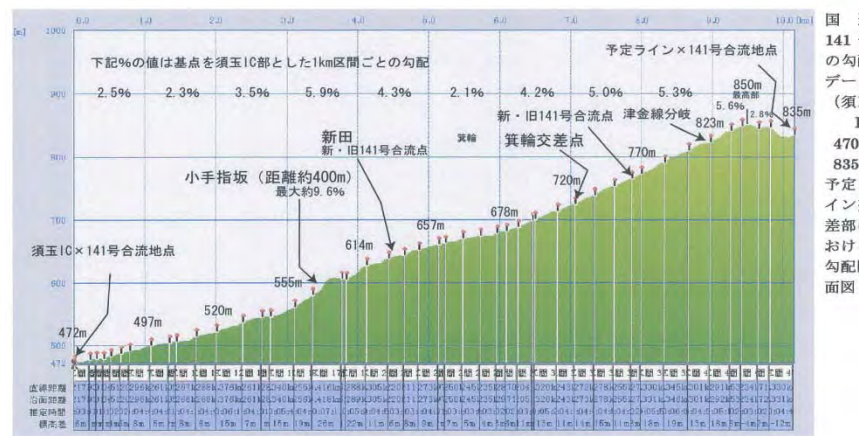
地元説明会における「なぜ長坂なのか」の問いに、国交省の説明では、「須玉と比較すると、長坂は勾配が少ない」、「高度差を稼ぐ」という観点で、野辺山-長坂と野辺山-須玉の勾配を比較している。そもそも、計画段階で835m地点まで、5.7%の勾配をクリアしているのだから、それ以下の勾配は問題ないはずである。従って、835m地点から須玉までの勾配には問題がない。



参考：旧清里有料道路清里大橋の坂は、およそ9.6%勾配である。
(作成 中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会)

図006-12

2013/3/1 申入書添付資料 5



(数値はおよその値です) 中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会 作成